



1) 参加研究機関等の役割分担

対馬および長崎県真珠組合等と共同研究により技術開発にあたる。

2) 予算

研究予算 (千円)	計 (千円)	人件費 (千円)	研究費 (千円)	財源			
				国庫	県債	その他	一財
全体予算	55,730	40,370	15,360				15,360
30年度	11,146	8,074	3,072				3,072
31年度	11,146	8,074	3,072				3,072
32年度	11,146	8,074	3,072				3,072
33年度	11,146	8,074	3,072				3,072
34年度	11,146	8,074	3,072				3,072

過去の年度は実績、当該年度は現計予算、次年度以降は案  
人件費は職員人件費の見積額

(研究開発の途中で見直した事項)

4 有効性

研究 項目	成果指標	目標	実績	H	H	H	H	H	得られる成果の補足説明等
				30	31	32	33	34	
	抑制貝の生残率を向上する養殖技術の開発	1						1	事業実施最終年度までの技術開発を目標とする。
	挿核後の脱核率を軽減する養殖技術の開発	1						1	事業実施最終年度までの技術開発を目標とする。

1) 従来技術・先行技術と比較した新規性、優位性

真珠養殖業の生産性向上に関する技術開発では、これまでに生残率が高いアコヤガイの作出や真珠の色彩を良くするピース貝(アコヤガイ)の作出を行い、県内の民間種苗生産機関に技術移転済みである。その結果、これまでに生残率が高いアコヤガイや色彩を良くするピース貝は、それぞれ4,758万個体および456万個体販売され、養殖業の生産性向上に貢献するとともに他県に対して独自技術を有している。今回、取り組む2つの技術開発については非常に難しい課題であり、他県では取り組まれておらず新規性が著しく高い。

2) 成果の普及

研究成果の社会・経済への還元シナリオ

当事業により、小規模経営体では着手できない技術開発に取り組むことが可能となる。また、真珠養殖業の生産性が向上することで、収益性の向上が期待される。

研究成果による社会・経済への波及効果の見込み

・経済効果：技術開発により生産性が向上することで、真珠の生産額が増加するとともに、養殖業者の手取り向上も期待できる。

(研究開発の途中で見直した事項)

種類	自己評価	研究評価委員会
事前	<p>(29年度) 評価結果 (総合評価段階: A )</p> <p>・必要性 : S 県内の真珠養殖業者は小規模経営体が多く、技術開発に関する基礎的な知見や資金力も乏しいため、技術開発は業界と県(漁業振興課・総合水産試験場)が連携して実施する必要がある。</p> <p>・効率性 : A 本事業は、養殖業者が単独では実現できない技術開発を業界と県が連携して実施することで、効率性が著しく高いと考える。</p> <p>・有効性 : A 本事業は、養殖業者が単独では実現できない技術開発を支援することから経営の安定化に有効であり、本県の真珠養殖業の振興には必要な研究である。</p> <p>・総合評価 : A 総合水産試験場と業界等が連携して、抑制貝の生残率向上や施術後の脱核率軽減に関する技術開発を行い、真珠養殖業の生産性を高め、養殖業経営の安定化へ貢献する。</p>	<p>(29年度) 評価結果 (総合評価段階: A )</p> <p>・必要性: S 県内の真珠業者は小規模経営が多く、技術開発力や資金力に乏しい。経営体当たりの生産額は回復しているが、いまだ厳しい状態であり、本事業でより生産性を向上させる必要がある。業界ニーズは高く、県として取り組むべき課題である。</p> <p>・効率性: A 他県にない新技術で、生産性向上を図ろうとする点と、これまでの血清タンパク質量の独自結果を利用する点が効率的である。抑制方法の最適化と脱核の防除等、目標は明確で、研究手法も適切である。また、業界との連携強化で、問題点の抽出と解決、ならびに技術の普及を図ろうとしており、効率性は大変高い。</p> <p>・有効性: A 本県が開発した技術を更に発展させる点と、本県の経営体単独で着手できない技術開発に取り組む点で有効性は高い。目標数値の設定には不確定要素も含まれているが、計画している成果が得られた場合の生産額の試算など還元シナリオも練られており、成果は見込まれると判断できる。</p> <p>・総合評価: A 産官が強く連携した体制のもとに、本試験場が有する新技術を更に発展させ、養殖業者の経営安定を図る点で評価は高い。生産性の向上と産業の再興が期待されるため、必要性は高く、実施すべき課題である。</p>
対応	対応	<p>対応</p> <p>本研究は、関係する漁協や養殖業者と連携し、これまでに得られた知見を最大限に活用して、計画的、効率的に実施していく。</p>
途中	<p>( 年度) 評価結果 (総合評価段階: )</p> <p>・必要性</p> <p>・効率性</p> <p>・有効性</p> <p>・総合評価</p>	<p>( 年度) 評価結果 (総合評価段階: )</p> <p>・必要性</p> <p>・効率性</p> <p>・有効性</p> <p>・総合評価</p>

	対応	対応
事後	( 年度) 評価結果 (総合評価段階: ) ・必要性  ・効率性  ・有効性 ・総合評価	( 年度) 評価結果 (総合評価段階: ) ・必要性  ・効率性  ・有効性 ・総合評価
	対応	対応